

「僕は経営者に向いているかな...」



こんにちは、
トベシンホーム
株式会社の
池辺晋一郎です。

今日は、なぜ私が
「おうちの修理をする
仕事をしているか」を
聞いてください

それは私の大切なお客様の
三瀬さんに出会えた
ことにあります。

ちょうど3年目の決算が終わり
会社を設立して3年での
生存率は50%だし、

よし！

このまま頑張っていけばもっと大きく
できるはずだと、一方で社員とは
私の考える経営方針とのすれ違いで、
少しわだかまりが出てきていました。

しかし……

やっと事業も軌道に乗り、
先が見えてきたので、
しっかり話をしよう……
地盤を固めよう。

その日はそう意気込んでいました。
いつも通り朝の出勤をして、
事務作業をしていた時に社員から
話があると伝えられ

おはよー!

別室で
話しません？

と言われ……

別室に向かうと、
退職の意向を伝えられ、
退職願を渡されました。
正直初めてのことで、
退職願を受け取ることで
精一杯でした。



退職
届

今の現実がなぜ起きたかを
考えることもできず、
そしてどんな行動を取ったか、
何て社員と話したか…

真っ白になった
頭の中で、その時
思ったことが、

こんなに苦しい思いをして、
仕事していく必要があるのか？

自分には経営者は
向いていないかな？

今までやってきたことは、
全部無駄だったのかな？

経営とは、お客様のことは
何も考えずに会社の
売り上げだけ上げればいいのかな

理想では、
お客様の笑顔が
いっぱい、あの時は
トベシンホームさん
に頼んでよかったねと
思ってもらえる会社を
創って意向と言っていますが、

現実では信じていた
社員が辞めてしまい、
その理想と現実の差に
直面した時、私は一番
近い距離にいる社員の
笑顔さえも守れなかった
自分が、情けなかったし、
本当に辛かった

朝会社に出勤すると、
今までいた社員がいない

本当に切なくて、
苦しかった…
こんなに苦しい思いを
するなら、会社を畳んで
楽な道進もうと何度も
何度も思いました。

「楽な道に進もう」と思う
度に、まだまだ未熟な私を
信用して、リフォーム工事を
任せていただいたお客様の顔が、
何度も浮かんで来て、

若い会社だけど、
池辺さんのことは
信用するから任せるよ

池辺さんの会社の
方針が素晴らしいから、
お願いしました。

あなたに色々
教えてあげたでしょ？
頑張ってるね、
応援してるから

励みになりました。
その言葉にどれほど
助けられたことか。
本当にありがたく
思っています。

ただ…
それでも私は、楽な道を
選ぶことを捨てきれずに、
「僕は経営者として本当に
この先やっていけるのか？」
と考えずっと悩んでいました

ふとした時にいつも
考えてました。
答えが出ない。でも、
ひたすら考えました。

悩んで1日がすぎ、

また1日が
過ぎ…

私は、一人で抱え込んでも
何も生まれないと思い
行動することにしました…
私の大切なお客様の1人の
三瀨さんに会いに行きました…

三瀨さんとの出会いは、私が
会社経営方針をお客様が
「笑顔いっぱい、あの時は
トベシンホームさんに
頼んでよかったね」と
言ってもらえる会社しよう
と私が思うようになって、

よろしく
おねがいします //

経営の勉強をする中で、
会社のチラシをどっしりよいか、
試行錯誤しながら一生懸命、
作ったチラシで、初めて
お問合せをしてくださったのが
三瀨さんでした。

トベシン
リフォーム

おせいびッ
ごめいッ

助けて欲しかったのかもしれない。
そして、この日の三瀨さんの一言に
とても助けられる事になりました。

今考えると励ましが
欲しかっただけ
かもしれない。
三瀨さんに甘えて
いたのかもしれない。

Kが辞めて
しまって僕一人に
なってしまった…

実は…

あ？
そうなんですか？
ほら入って入って

三瀨さんにちょっと
話したいことがあって、
今日はお伺いしたんです

ブーン

Kさん
辞めちゃったの？

えっ!?

そうです

なんか
あったの？

そっかあ…

給料を払えないとか、
そういったのではなくて、
多分経営方針を変えたから
だと思っんです。

今までは経営方針という
方針ってあまり決まってい
なかつたんです。
ぼんやりとこうしたいな
という思いはあつたんですが、

実際行動までは
僕がしていなく、
その時に入ってきたのが
Kだつたんです。

あーなるほどね。

社員が社長の変化に
ついていけなくなつたんだね。
僕は何社もアパレル会社の
ずっと社長のNO2を
やってたからね

そうだつたん
ですね…

そう、会社の方針を変えると今まで
やってきた会社のルールや行動も
変えなくちゃいけなかつたんです。
今まで社員に対して黙つてきた
ことも言わなくちゃいけなくなつて…
なんかその辺から上手く
いかなくなつてきた気がして…

それはね、池辺さん。
池辺さんは何も
悪くないよ。

だって会社も黒字なんでしょ？
社長という仕事はね、信念が
あつてそれについてこいという
人がやる仕事だから、私の歳に
なればいろんな経験してるからね。

いろんな社長を見てきたけど、
池辺さんのやり方は絶対
間違つてないよ！

そうですね…
でもやっぱり社員は
僕を信用してくれて…

多分Kさんは、3ヶ月後
とかに戻ってくると
思うし、自然と池辺さんと
同じ思いを持っている人が
集まるから、何も心配しなくて
いいと思いますよ。

戻って
きますかね？

わからないけど、
でも今池辺さんの方針は、
僕も若いうちには
わからなかったですよ。

でもね、30歳過ぎた
あたりから今までわから
なかったことがだんだん
わかってくるようになるから、

池辺さんは若いんだし
大丈夫ですよ！

はい！！
ありがとうございます
ございます！

トベシンホームさんが
無くなってしまおうと
困るのであと
50年ぐらいは続けて
頂いて、お客さんの
顔みながらね！

そうですね！
ありがとうございます
ございました！

まだまだ経営者として
僕は未熟で自分はなぜ
こんな苦しい思いを
してるんだらう？

会社をたためば
楽な道はあるのに…



自問自答しながら、
本当に苦しかった時に
助けて頂いたのは

三瀨さんの

「トベシンホームさんが
無くなってしまおう困るので、
後50年は続けて頂いて…」

という言葉にどれほど
僕が助けられたか、
わかりません…

僕の今までの頑張りが
報われた気がしました。
間違っていないなかったのかな？と
少し安心できました。



その時、自分の目指してきた経営方針が
例え社員が辞めてしまっても…
絶対間違いではないと
再認識することができました。
三瀨さん、本当に本当に
ありがとうございます。そして、
私はこの出来事があった時に思いました。

お客様「笑顔いっぱい、
あの時はトベシンホームさんに
頼んでよかったね」と言ってもらえる
会社を作ることが、
私の仕事だと。どんなに苦しいことが
あってもうちのお店を信じて
任せてくれたお客様がいる限りもう
悩んだり、挫けたりしないと決めました。



三瀨さんが、私が本当に
苦しい時助けてくれたように
私も困っている人がいるなら
その方の助けになることが
できればと思っています。
今の僕にはそれしかできません。



そして無理をしてリフォーム
するものではないと思います。
今の生活を圧迫してまで、
リフォームするのも違うと
思っています。

私の仕事は「単にリフォームの
ご契約をいただく」ではなく、
何かあった時に「あの時に契約
しとけば良かった」と後悔する
人を1人でも減らす事。



「話したいけど、相談したいけど
誰に話していいかわからない」と
悩んでいる人を1人も減らす事。
リフォームが本当に必要になった時に
「もっと早く知れたかった。もっと
早くきてよ」と言ってくださる方を
本当に大切にすること。



「あの時はトベシンホームさん、池辺さんに
頼んで良かったね」とご主人様、奥様が
笑顔になれますように。
ご縁を頂いた方が、もし何かあった
時に直ぐに名前を思い出して頂けるように。
池辺がしてくれるから、
安心出来ると言って頂けますように。



「あなたが来てくれて良かった」と
悲しそうな顔、不安そうな顔、
怒っている顔が笑顔になりますように。
「こういう場合はどうしたら良いの?」と
1人で不安に思っている方へ寄り添う
ことができますように。

知識がないから、
信じてしまうのよね

売り込まれるのが
嫌だった

思っていた
金額と違った

あの時は信頼してたから、
この人にお願ひしよう、
と...でも...

と悲しむ方を1人でも減りますように。
お客様ご本人にも、その方の
愛する大切な家族皆さんにも、
何かあった時、安心して笑って
暮らしていけるよう私だからできる
サポートをさせて頂くための仕事なのだ。

これからも微力ではありますが、
一人でも多くの方のお家、大事な
お家に住む大切なお客様の人生にも
お家の修理屋として寄り添うことが
できれば、せっかくのご縁を頂いた
方や、大切なお客様が穏やかに
毎日を過ごせますように。

リフォームの仕事以外でも
「助かったよ、ありがとう」と
言ってもらえますように。
その想いを大切にしてい
きたいと思っています。

これからも、1人1人のお客様の隣で同じ方向を向いて、リフォーム会社の
池辺としてだけではなく、「あなたに出会えて良かった」と
心から言って頂けるように、素敵なお縁を大切に参りたいと思います。
これからもお客様が「笑顔いっぱい、あの時はトベシンホームさんに
頼んで良かったね」と言って頂けるように、この想いを大切にしていきたいと思ひます。